



東亞天文協會觀測部月報

流星課月例報告 (57)

昨年三月及四月の觀測者及觀測數は下表の如くである。

觀 測 者	觀 測 地	三 月			四 月		
		回数	時間數	流星數	回数	時間數	流星數
本 田 實	鳥 取 縣 八 東	2	60	1			1
小 楨 孝 二 郎	和 歌 山 縣 金 屋	1	20	6	1	30	3
西 井 宗 一	大 阪 市	9	350	27	7	345	20
吉 井 耕 一	廣 島 縣 竹 原 町	12	940	87	13	1680	144
安 武 研 二	福 岡 市				3	170	6
宇 野 良 雄	京 都 市				2	150	5
勝 浦 茂 雄	ブ ラ ジ ル				13	1020	85
山 田 才 吉	瀨 戸 市				6	340	9
大 窪 文 秀	ブ ラ ジ ル				8	585	26

四月上旬の乙女座流星群

南米の大窪君によつて見事に觀測された。同氏の5日の觀測より求めたる輻射點の位置は $\alpha=210^\circ$ $\delta=-9^\circ$ である。

琴座流星群

例年かなりの程度に觀測されるこの流星群は、本年は月明と天氣惡の爲觀測不充分に終つた。出現の程度は著しいものでなかつた事は確かである。其他に別に記すべき流星群はみとめられなかつた。

× × × × ×

× × × × ×

1936年は主要流星群の觀測に甚だ好都合の年である。四月の琴座群五月の水瓶群、八月のペルセウス群、十月のオリオン双子群、十一月の獅子座群、十二月の双子群何れも月の邪魔少く、天候さへ恵まれるならば充分觀測出來やう。課員の奮闘並びに新觀測者の輩出を希ふものである。

課長 小 楨 孝 二 郎

變光星課報告 (35)

倉 敷 小 山 秋 雄

12月中の觀測報告數

氏 名	今 津 續	木 邊 成 鷹	加 藤 孝 一	沓 掛 七 二	高 井 博 典	笹 部 榮 一	伊 達 英 太 郎	佃 泰 三	鈴木 一 男	小 澤 喜 一	西 井 宗 一	勝 浦 茂 雄	横 山 叔 郎	河 合 孝 一	小 山 秋 雄	合 計
星 數	12	45	13	24	2	12	4	7	8	20	21	10	4	7	5	86
觀測數	63	335	64	149	2	23	10	46	22	202	122	161	39	42	49	1229

●記録を更新する盛況を呈した、新に大阪市の河合氏を迎へた。●勝浦氏(ブラジル)は5, 6, 7月分、河合氏は11, 12月分である。

ミラ型變光星の光度曲線の種類

長週期變光星とも言はれてゐるミラ型星の光度曲線に色々種類のある事は以前より解つて居り分類に手を着けた人があつたが、十年程前ルデンドルフ氏が甚だ具體的な方法で分類した。前號の極大・極小豫報の表にのせたのは此の分類であつて大別して α , β , γ の三つに分つ。即ち

α : 増光は減光より著しく急激で、概して極小は極大より平たい。

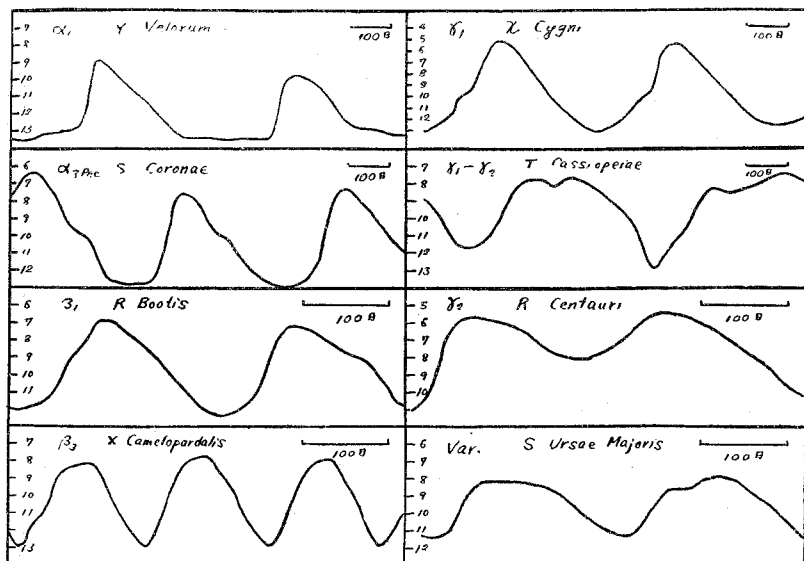
此の性質の最も顯著なるものを α_1 とし、 α_2 , α_3 , α_4 と次第に次の β 型に移る。

β : 増光は概して減光に比して急激でなく。たとへ急激であつたにしても極く僅である。光度曲線は本質的に對稱的である。

此れも細分し、 β_1 は極大が極小より尖つて居り、 β_4 では極大が甚だ平たくなる。

γ : 増光時に一時的停止を示すものを γ_1 、又明に二つの極大を現はすものを γ_2 とする。

圖示した星の中、S Coronaeは減光時に段があるので“Pec”，又 T Cassiopeiaeは時には γ_1 、時には γ_2 であるので $\gamma_1-\gamma_2$ にて示した。又 S UMaは甚だしき變化を示す星であるから“Var”なる記號を用ゐてある。



太陽課 黒點相對數報告 (1935年十一月)

觀測者(觀測地)	松本 臺灣臺中高女	渡邊 大分縣杵築	日野 松山師範學校	久保 高知高等學校	改發 神戸市須磨區	荏部 神戸市灘區	伊達 兵庫縣雲雀丘	佐々 大阪市岡中學	前田 京都市下京區	木邊 滋賀縣中里村	沓掛 長野縣青木村	清水 靜岡縣島田町	大石 靜岡	森久保 神奈川縣及川	淺居 橫濱保土谷區	服部 東京市大森區	菊池 岩手縣水澤町	半田 北海道岩見澤
鏡徑耗	58	41	98	75	150	75	80	110	70	75	102	100	45	58	50	58	58	58
倍率	40	55	69	77	68	77	70	92	40	60	75	73	60	60	44	50	32	32
1	52	雨	曇	雨	雨	62	雨	休	雨	雨	曇	雨	雨	曇	曇	修理中	曇	
2	曇	忙	忙	64	61	曇	忙	曇	68	55	61	61	33	45	44	修	64	
3	"	忙	曇	33	35	46	忙	曇	70	87	65	65	忙	忙	47	理	雨	
4	"	曇	66	42	66	79	65	51	76	63	64	曇	曇	曇	36	中	曇	
5	52	"	雨	雨	雨	曇	曇	欠	曇	64	曇	87	曇	曇	曇	曇	曇	
6	60	"	79	41	82	67	曇	欠	曇	63	曇	112	曇	曇	90	曇	曇	
7	73	"	91	44	116	70	74	66	91	85	88	112	曇	曇	93	曇	曇	
8	104	"	102	69	109	92	90	休	81	90	86	96	曇	曇	97	曇	曇	
9	106	"	79	70	109	96	114	86	77	99	86	117	曇	曇	曇	曇	曇	
10	旅	94	曇	82	109	95	94	79	曇	病	54	曇	88	曇	69	曇	曇	
11	"	曇	曇	54	125	80	81	69	71	曇	曇	81	47	曇	49	曇	曇	
12	"	85	曇	58	欠	89	69	欠	曇	51	77	忙	62	曇	47	忙	曇	69
13	"	雪	曇	59	欠	80	105	病	77	90	72	91	62	曇	46	忙	曇	77
14	"	曇	曇	69	欠	70	欠	病	78	64	77	92	64	曇	58	忙	曇	53
15	"	曇	曇	59	欠	46	欠	休	57	55	56	69	68	曇	欠	忙	曇	58
16	"	曇	曇	60	50	91	82	81	66	110	96	69	曇	曇	62	忙	曇	?
17	"	雨	雨	雨	欠	雨	雨	曇	曇	雨	曇	忙	曇	曇	雨	曇	曇	79
18	"	曇	曇	38	80	56	66	欠	49	67	77	欠	56	曇	欠	曇	曇	?
19	"	24	曇	36	46	59	45	45	33	67	48	33	33	"	34	曇	曇	?
20	"	27	曇	25	28	28	27	休	23	40	40	33	23	"	曇	曇	曇	24
21	"	38	曇	36	41	44	39	38	22	39	43	38	25	"	36	忙	曇	37
22	"	曇	曇	46	曇	48	46	欠	35	52	48	48	48	"	曇	忙	曇	46
23	64	66	53	49	67	曇	65	"	36	77	69	欠	36	"	35	忙	曇	?
24	94	75	曇	65	77	86	65	51	49	70	80	61	49	"	60	忙	曇	55
25	雨	曇	休	曇	曇	106	忙	曇	曇	曇	103	72	曇	"	90	曇	曇	?
26	78	曇	雨	82	雨	曇	曇	曇	59	95	86	99	曇	曇	曇	旅	曇	?
27	73	曇	測	雨	雨	曇	曇	雨	曇	雨	曇	曇	欠	曇	雨	"	曇	71
28	曇	"	"	旅	"	73	曇	曇	曇	73	曇	曇	曇	曇	欠	"	曇	73
29	84	曇	"	73	101	123	曇	"	68	97	曇	曇	曇	曇	曇	"	曇	?
30	95	77	"	101	123	欠	曇	"	71	125	85	94	忙	"	58	忙	曇	49
31	雨	101	"	82	106	"	曇	"	71	142	106	"	"	"	曇	"	曇	69
日數	12	13	16	24	20	23	21	13	24	24	23	19	20	4	18	9	11	13
平均	78	64	66	33	87	74	72	59	60	76	72	81	54	—	58	118	75	58

●清水氏の寫眞觀測は以上の外19, 22, 23日にも行はれてゐます, 良好な觀測成績です。●本月は北海道に新しく觀測者半田氏を得た事を喜びます。●この調子で朝鮮滿洲方面に新測定者の出現を切望します。●當課の盛況と, 太陽活動の盛況(三桁の相對數がグングン増す)とで, 遂に印刷所の悲鳴(組版困難)となりました。尙他の事情もありますので來月からは觀測日數の少いもの(原則として月の半以下)及報告の後れたもの(月始め一週間以内に届かないもの)は表から省略することがありますから悪しからず……。但、だからと云つて報告を中止されない様にお願ひします。

觀測部「月面課」の新設について

“Smooth Silvered Sphere”といふうるはしい形容を持つてゐる「月」も、望遠鏡がこれに向けられて以來、終に 30,000 の噴火口に名前がつけられてしまった。そして、新しく科學的美を私達に與へつつある。

國際天文同盟には「第17委員會」として「月面命名」の一部門がある。今、この方面の學界を見渡せば、W. H. Pickering 氏は大先輩として米國に君臨し、第一線に活躍しつつあるのは、英佛兩國、その成績龍虎相競ふの感をさそふ、誠に盛である。

さきに長野縣の沓掛君は黃道光研究に關聯して、觀測部「遊星面課」の新設を熱望されるや(天界149號)、折柄土星面に現はれた大白紋に刺戟され、機運熟して直ちに實現されたが(天界150號)、觀測は諸遊星に限られ、山本臺長ここに悲憤、月面の觀測を新しく提議されたにも拘はらず(天界162號)、依然としてその反響を聞かない。

火星が接近するといへば緊張する遊星面觀測者であるが、その觀測の困難さは經驗者のみを知る。更に、火星が去る時は一同全く元氣なく、わづかに眼を木星と土星とに向ける。月面を觀測しやうとはしない。不思議以上の何物でもない。

最近漸く、月面觀測に意義と興味とを見出す諸君の意見を聞くことが出来るやうになつた。幸か不幸か、わが國には未だこの方面の系統的觀測がない。英佛の傳統に對して、新進日本の意氣を示したい。

機械は決して大を必要としない。英國に於けるそれは屈折 8~17cm, 反射 12~34cm, 佛國に於けるそれは屈折 7~29cm, 反射 20~32cm. ここに私達の天下がある。

月面觀測者はその結果をあせつてはならない。常時微細な努力が美しく結晶する。英國に於ける斯界の雄 W. Goodacre 氏の “To achieve success in this branch of Astronomy requires on the part of the observer constant assiduity in the study of some particular region or object.” なる語は私達の深く味はふべきものである。(淡翠山人)